

学校体育通信 「やまぐちっ子の元気」

第16号 H26(2014).12.22

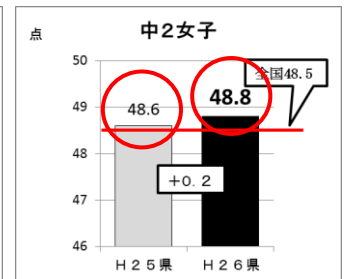
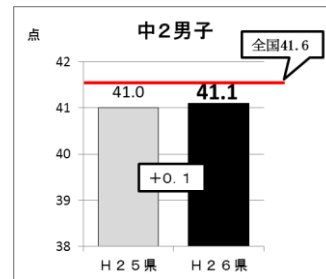
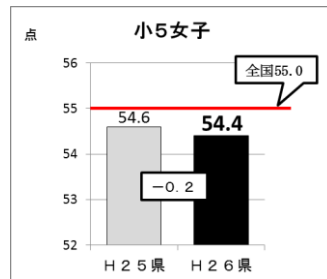
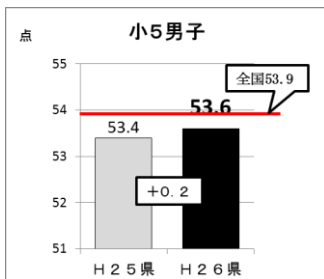
山口県教育庁学校安全・体育課 学校体育班

平成26年度全国体力・運動能力運動習慣等調査の結果について

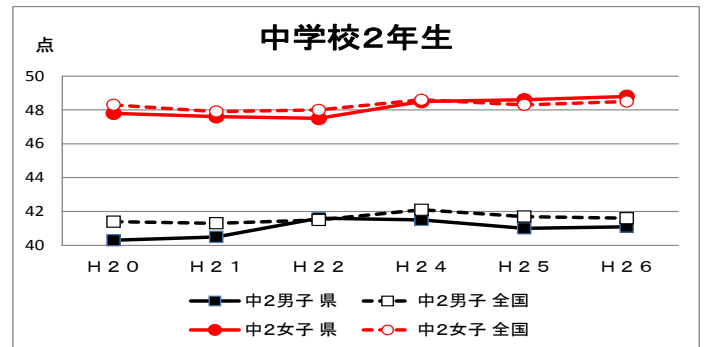
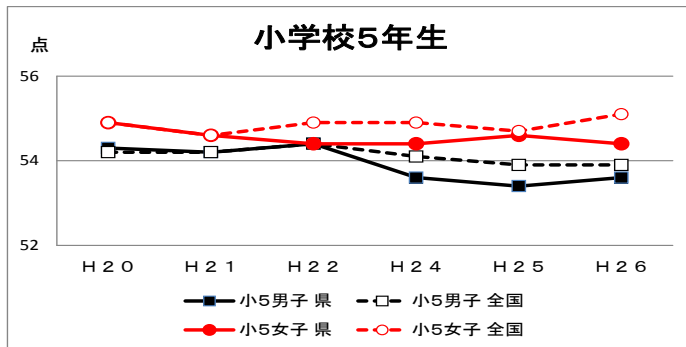
文部科学省では、全国の子どもの体力の状況について、詳細な把握・分析を行うことを目的として、平成20年度から、表題の調査を実施しています。各小中学校の本年度の調査結果については、12月中には郵送されます。子どもの体力や運動習慣等の状況を把握いただくとともに、1校1取組の見直しや、授業の改善にご活用ください。また、調査結果を子どもに知らせ、体力の重要性や運動への意欲が高まるきっかけとなりますように、ご指導をお願いいたします。

■ 体力合計点の山口県平均値と全国平均値の比較

○ は、全国平均以上



<体力合計点の推移>

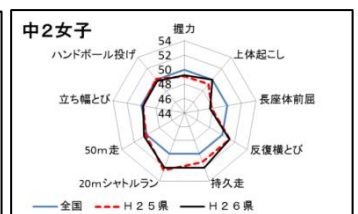
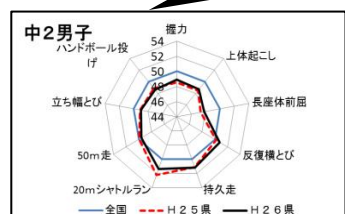
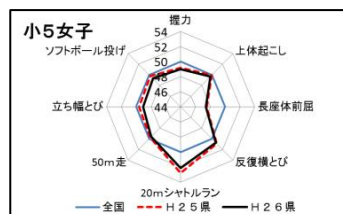
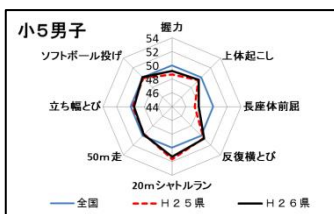


※H20・21・25・26年度は悉皆調査 H22・24年度は抽出調査 H23年度は震災により中止

■ 各調査項目の山口県の平均値と全国平均値の比較

多様な運動経験によって、体力要素のバランスのよい子どもの育成を！

<全国平均値を「50」とした場合のレーダーチャート>

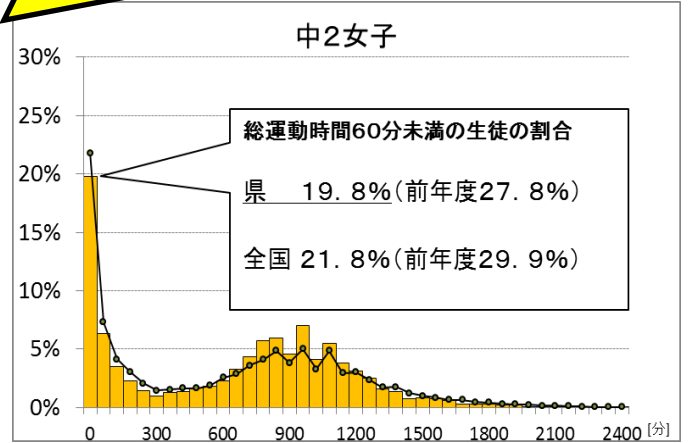
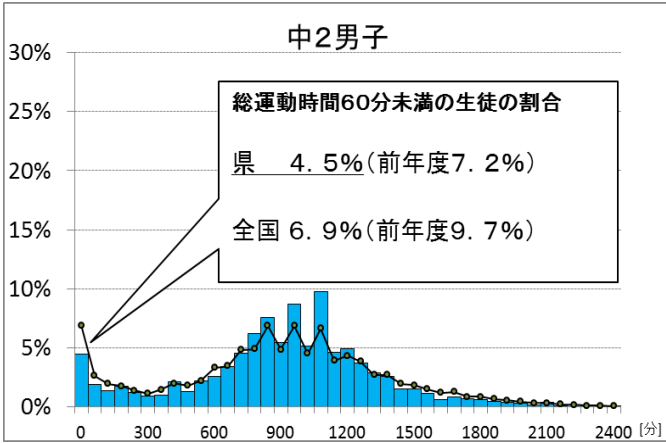


- 「体力合計点」は、前年度と比較して、すべての調査対象で、ほぼ同等の結果でした。また、全国平均との比較では、中2女子が2年連続で全国平均を上回りました。
- 各調査項目では、前年度同様に、持久力(20mシャトルラン)や敏しょう性(反復横とび)に優れ、筋力(握力)や柔軟性(長座体前屈)に依然として課題があります。
- 男子の長座体前屈等、改善の兆しが見られる項目もあり、今後も継続的、意図的な取組を進めていくことが重要です。

生徒会活動（児童会活動）等による主体的な運動機会づくりを！

例 クラスマッチに向けた全員参加による練習

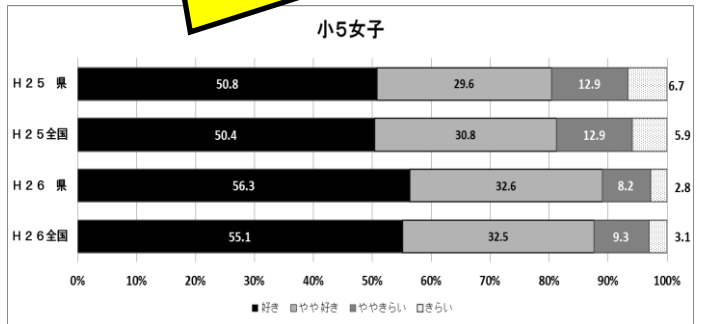
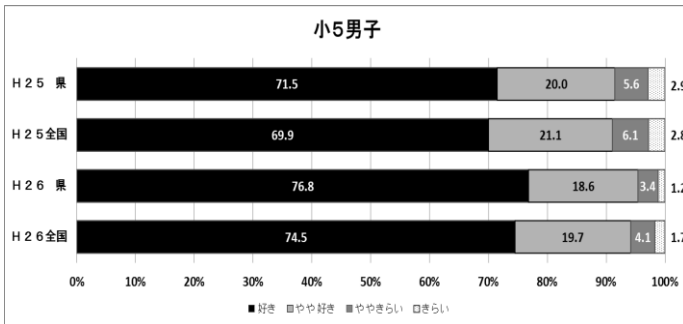
■ 1週間の総運動時間別の生徒の割合



- 1週間の総運動時間が60分未満の生徒の割合は、全国と比較して低く、前年度に比べ減少しました。小学生も同様の傾向でした。（※棒グラフは県、折れ線グラフは全国の割合）
- 中2女子では、1週間の総運動時間が60分未満の生徒が5人に1人となっています。

■ 運動やスポーツが好きと回答した児童の割合

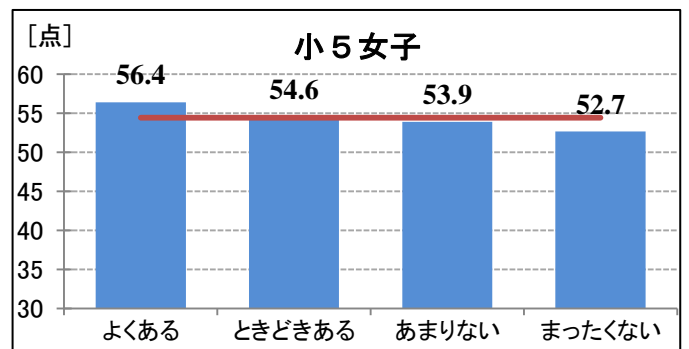
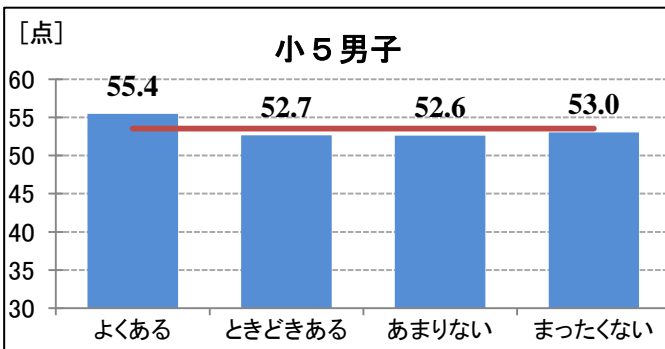
運動が「好き」という子どもを増やしましょう！



- 運動やスポーツが好きと回答した児童の割合は全国と比較して高く、前年度に比べ増加しました。中学生も同様の傾向でした。

家庭での過ごし方について、保護者への啓発を！

■ 「家庭での積極的な運動への働きかけ」と体力合計点の関係



- 家庭での積極的な働きかけがよくある児童ほど（中学生も同様の傾向）体力が高い傾向にあります。（※横線は県平均）
- 家庭での働きかけについては、「一緒に運動する」ことはもちろん効果的ですが、「スポーツを観る」、「運動やスポーツの話をする」頻度が高い児童・生徒も、体力が高い傾向があります。